

長和町

「山村再生プロジェクト」積み重ねて10回目

産学官が連携“地域活性化に成果は大きく”

長和町と東京農業大学が連携し、23年度からスタートした「山村再生プロジェクト」。このほど10回目を迎え、3日間に渡り学生らの実習が町内で

で行われた。同プロジェクトは、地域活性化と山村の再生を目的に産学官が連携。町民が指導者となり、農業の再発見や農業人材の育成を目指す。今回は東京農大から約20人が来訪。近隣に名高い「おたや祭り」や、かつて冠婚葬祭などで配られたという「ドラ焼き作り」などに参加し、



繭玉、やしろうま作りを体験する学生



「おたや祭り」の山車の後片付けも手伝った

町の伝統文化と食文化に触れた。

町産業振興課の尾美保さんは、「町民と交流できるし、伝統文化に学生の斬新な発想を取り入れたい」と、連携プロジェクトを推進。学生からは「町の歴史文化を焼印にしてドラ焼きに押し、立岩和紙の包装紙で売ったらどうか」などのアイデアが出された。同大では、地元産の花豆を使った味噌や納豆などの研究も進められているという。

3日間のなかで学生は繭玉・やしろうま作り、どんと焼きなども体験し、「地方出身の学生がほとんどで、地元の文化を思い出して楽しんでいた」と、尾美さんは語る。また最終日には、おたや祭りの山車の後片付けも手伝うなど、「プロジェクトの成果は大きく上がっている」と喜んだ。

同大の立岩寿一教授は「価値のある体験で、ぜひ続けてもらいたい」と話していた。